



HELLO, NEW CITY.

新しいまちの暮らし

スーパースマートシティうつのみや始動



美術館のリニューアルオープンについて

令和4年8月25日

**新たな装いで開館25周年を記念した「全館コレクション展」を開催します！
～より快適な空間で本市秀逸のコレクションを大公開～**

空調等の設備改修工事のため、昨年夏より休館しておりました美術館が、快適な鑑賞環境を整えて、9月25日にリニューアルオープンいたします。

これまで収集したコレクション作品を「時間」をテーマとして読み解き、本市美術館の魅力を紹介する企画展を開催いたします。

○ 企画展概要**開館25周年記念 全館コレクション展『これらの時間についての夢展』****・開期 令和4年9月25日～令和5年1月15日**

宇都宮美術館の歴史、時間の視覚化、不変的なモチーフ、本市美術館の特別な作家であるマグリットやシャガール作品などに加え、今回初めて招聘する現代作家3名の特別展示によって、来館者の皆様が、これまでとこれからの宇都宮美術館の「時間」と「美術」に思いをめぐらせ、本市美術館の魅力を再確認いただける展覧会です。

【招聘作家について】

大巻伸嗣(おおまきしんじ)、高橋銑(たかはしせん)、力石咲(ちからいしき)

「時間」にかかわる優れた作品を制作しており、宇都宮美術館の魅力を一層引き出すことができる作家たち

○ 施設リニューアルの内容**(1) 展示室等の設備改修など**

- ・空調システム改修と設備更新
- ・展示室及び収蔵庫照明のLED化 等

(2) ミュージアムショップ及びレストランのリニューアル

- ・新たな事業者による運営がスタート

【ミュージアムショップ運営事業者について】

株式会社ファーマーズフォレスト

【レストラン運営事業者について】

株式会社パレット

○ 再開日

令和4年9月25日(日)

- ※ 前日の9月24日(土)に内覧会を開催します。取材対応いたしますのでお問い合わせください。

<問い合わせ先> 教育委員会事務局文化課 課長 山口 達雄(028-632-2761)

Event Information

●関連イベント

講演会「コレクションを魅せる！テーマ展示の今日的な課題と可能性」



90年代以降隆盛しているコレクションを活用したテーマ展には、各美術館の個性を活かした創意工夫がたくさん詰まっています。本講演会では、松岡剛（広島市現代美術館主任学芸員）氏を迎えて、同氏の手掛けた「美術館の七燈」展や国内外の事例を広くご紹介いただきます。作品収集のエピソードと合わせて、本展覧会の歴史的な背景や位置づけを知るまたとない機会です。

講師 松岡剛（広島市現代美術館主任学芸員） 聞き手 伊藤伸子（宇都宮美術館総務学芸課長）

日時：10月15日（土）午後2時～4時

会場：宇都宮美術館 講義室

講師：松岡剛（広島市現代美術館主任学芸員）

1975年大阪府生まれ。1998年より、広島市現代美術館にて展覧会、作品収集、作品保存などの学芸業務に携わる。近年、「赤瀬川原平の芸術原論展」（2014～15、千葉市美術館、大分市美術館との共同企画）、「殿敷侃：逆流の生まれるところ」（2017）、コレクション作品を中心とした開館30周年記念特別展「美術館の七燈」（2019）を担当。現在は2023年3月のリニューアルに向けた準備を進めている。

【事前申込制】

①住所 ②氏名（複数の場合全員分）③年齢 ④人数 ⑤電話番号 を明記し、下記のあて先までFAXまたは往復ハガキにてお申込ください。 ※10月1日（土）必着

お申込先 〒320-0004 栃木県宇都宮市長岡町1077番地 宇都宮美術館 これ夢展 イベント係 FAXの場合 FAX.028-643-0895

※定員80名。応募者多数の場合は抽選。当落に関わらず美術館から連絡します。

●関連イベント

担当学芸員による見どころガイド 日時：12月3日（土）、10日（土）、17日（土）、24日（土） 午後2時～3時 ※企画展チケットをお求めの上、受付前にお参りください。

●宇都宮美術館【次回企画展】

同時開催 2023年2月19日（日）～4月16日（日）

「陽 威二展 混ざりあうカタチ」
「二つの教会をめぐる石の物語」

●栃木県立美術館のご案内

第76回 栃木県芸術祭 美術展 洋画・彫刻・工芸

2022年9月24日【土】～10月6日【木】

*詳細は栃木県文化協会にお問い合わせください。TEL.028-643-5288

開館50周年記念展 印象派との出会い

—フランス絵画の100年 ひろしま美術館コレクション

2022年10月22日【土】～12月25日【日】

*詳細は栃木県立美術館にお問い合わせください。TEL.028-621-3566



宇都宮美術館
Utsumomiya Museum of Art
〒320-0004 栃木県宇都宮市長岡町1077番地
TEL.028-643-0100【代】/FAX.028-643-0895
ホームページアドレス≡http://u-moa.jp

【交通案内】

- JR 東京駅から東北新幹線にて「JR 宇都宮駅」下車（約50分）JR 宇都宮駅西口5番バス乗場から関東バス「豊郷台・帝京大学経由 宇都宮美術館」行き終点下車（約25分）
- 東北自動車道「宇都宮インターチェンジ」から約10km、「鹿沼インターチェンジ」から約14km
- 北関東自動車道「宇都宮上三川インターチェンジ」から約19km



本展および関連イベントにつきましては、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のために、中止もしくは延期など変更になる可能性があります。なお、開館する場合でも入場制限などの措置を講じる場合がございます。最新の状況は、当館のホームページなどを通じて、随時お知らせいたします。

Utsumomiya Museum of Art
These Dreams of Times



19971998199920002001200220032004200520062017200820092010201120122013201420152016



開館25周年記念 全館コレクション展

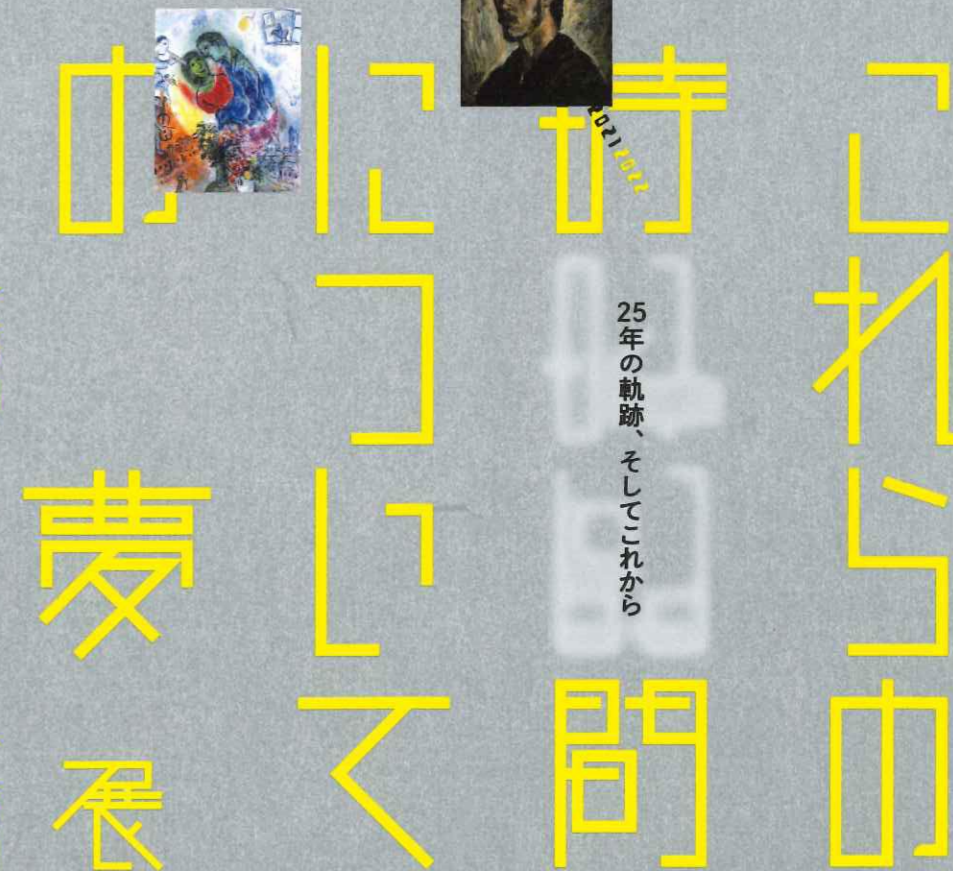
●開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
●休館日：月曜日・10月11日（火）・11月4日（金）・11月14日（月）～18日（金）
12月29日（木）～1月3日（火）・1月10日（火）
※10月10日（月）祝と1月9日（月）祝は開館

●観覧料：一般1000円、大学生・高校生800円、中学生・小学生600円

□主催：宇都宮美術館

※（一）内は20名以上の団体料金◎身体障がい者手帳、養育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者（一名）は無料◎宇都宮市に学または在住の高校生以下は無料。
◎毎月第3日曜日（10月16日、11月20日、12月8日）は「家庭の日」です。高校生以下の方を含むご家族で来館された場合、企画展観覧料が一般・大学生が半額、高校生以下は無料となります。
◎11月3日「文化の日」は無料

MON. 9/25 SUN
MON. 1/15 SUN



本展および関連イベントにつきましては、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のために、中止もしくは延期など変更になる可能性があります。なお、開館する場合でも入場制限などの措置を講じる場合がございます。最新の状況は、当館のホームページなどを通じて、随時お知らせいたします。

※各作品画像のキャプションは本チラシの内側に掲載

Utsunomiya Museum of Art

These Dreams of Times

開館25周年記念 全館コレクション展

25th ANNIVERSARY

これからの時代の夢展



ベーター・ペーレンス
《電気時計「シンクロン」》1907~08年

展示会の構成

本展示会は、25周年を迎えた当館の歴史をまとめた年譜と共に、準備室時代の資料などを展示する空間から始まります。続く展示室1では、残された資料を基に、1997年の第1回コレクション展の再現を行います。図鑑の1ページのように、作品を見るために純化されたホワイトキューブにおける再現展示は、さながら25年前へのタイムスリップとなることでしょう。

続いて来場者が目にするのは、「時間という目に見えないものに色と形を与えることで、時計やカレンダーとなったデザイン作品です。風景画を中心としたコーナーでは、山並みなど不変的な光景を捉えた作品群が一堂に会します。さらに、本展は、世界が戦争の恐怖に包まれた1919-1943年の25年間に制作された日本とドイツの作品群を集めたコーナー、当館のコレクションの代表的な作家であるマルク・シャガールの生涯を追う特集へと続きます。

さて、上記の当館の歩みとコレクション作品の紹介が、当館の「これまで」であるとしたら、「これから」を見せるのは、3名の招聘アーティストの作品です。大巻伸嗣は、その代表作の1つであるカーペットの上に顔料によって花々を描き出す作品『Echoes-Infinity』シリーズの新作を制作します。今回、大巻は宇都宮美術館のある公園に咲く四季の花々を題材としました。外光が差し込む吹き抜けるホールに現れる作品は、美術館のある森の四季の流れが凝縮したものとなるでしょう。高橋銃は、美術作品の保存と活用のジレンマを鋭く提示し話題となった映像作品《二羽のウサギ》に加え、当館での下見から着想した写真の新作を手掛けます。カ石咲は、これまでベンチ、建物、樹木などを色鮮やかな毛糸で包む作品を発表してきました。今回は、毛糸によってつなぐというテーマを深化させ、糸をほどく事に意味を持たせる新作を構想しています。

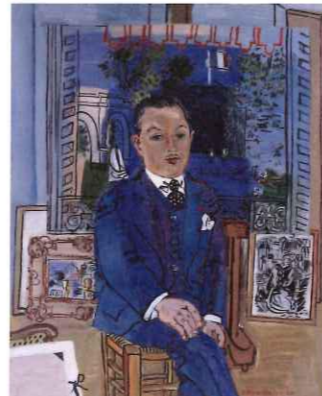
彼/女たちの作品は、コレクションや宇都宮美術館の歴史に新たな視点をもたらす、鑑賞者を美術作品と時間をめぐる深い思索へと導くこととなるでしょう。

宇都宮美術館は、20世紀以降の美術・デザイン作品を中心に約6,800点の作品を収蔵しています。例年3回コレクション展を開催し、様々な切口を設けて作品を展示し、その魅力を紹介しています。本展は、開館25周年の記念事業として、1997年の開館から、現在に至るまで当館が収蔵した名品200点あまりを「時間」というテーマで、多角的に紹介します。

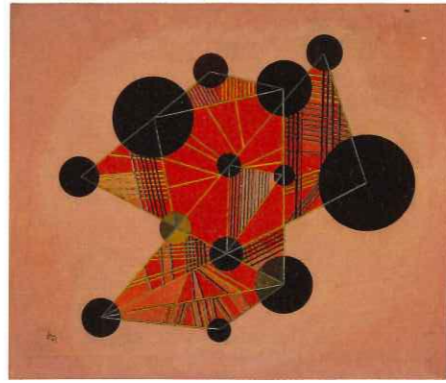
また、特別展示として、大巻伸嗣、高橋銃、カ石咲の現役アーティスト3名が本展のための新作を発表します。



マルク・シャガール《緑、赤、青の恋人たち(街の上で)》1983年



ラウル・デュフィ《ピエール・ガイス・マール氏の肖像》1938年



ワシリー・カンディンスキー《浮遊》1927年



ルネ・マグリット《夢》1945年



ルネ・マグリット《大家族》1963年



杉浦非水《東洋唯一の地下鉄道 上野浅草間開通》1927年



斎藤富蔵《牛と蝶》1976年



恩地孝四郎《自画像》1919年



多田北島《東京丸の内 富国徴兵保険相互会社》1930年代後半~1940年



海老原喜之助《雪》1930年頃



辰野登恵子《Untitled 93-20》1993年



高橋出一《中州月夜の園》1878年



やなぎみわ《夜半の寝覚め》1999年



KIGI (植原亮輔・渡邊良重)《Roll 12》2013年



ベーター・ペーレンス《電気ケトル》1908年頃



佐藤時啓《光-呼吸(Photo-Respiration Utsunomiya #4)》2001年

出品予定作家

【コレクション作品】

荒井孝、五百城文蔵、猪熊弦一郎、上野山清貴、海老原喜之助、恩地孝四郎、亀倉雄策、川上澄生、川島理一郎、佐藤時啓、里見勝蔵、里見宗次、杉浦非水、高橋由一、辰野登恵子、谷中安規、ラウル・デュフィ、難波田龍起、灰野文一郎、パウル・クレイ、長谷川利行、ベーター・ペーレンス、松本竣介、松本哲男、マルク・シャガール、やなぎみわ、山田正亮、吉原治良、米陀寛、ルネ・マグリット、ワシリー・カンディンスキー 他

【特別展示】



大巻伸嗣(おおまき・しんじ)《Echoes-Infinity(2018)「深みへ-日本の美意識を求めて-」展(ロスタイルド館/パリ)での展示風景、2018年

<http://www.shinjiohmaki.net/>

「存在」とは何かをテーマに制作活動を展開する。環境や他者といった外界と、記憶や意識などの内界、その境界である身体の関係性を探り、三者の間で揺れ動く、曖昧で捉えどころのない「存在」に迫るための身体的時空間の創出を試みる。

主な個展に、「存在のざわめき」(関渡美術館/台北、2020)、「まなざしのゆくえ」(ちひろ美術館、2018)、「Liminal Air Fluctuation-existence」(Hermèsセーブル店/パリ、2015)、「MOMENTAND ETERNITY」(Third Floor-Hermès/シンガポール、2012)、「存在の証明」(箱根彫刻の森美術館、2012)、「ECHOES-INFINITY」(資生堂ギャラリー、2005)など。あいちトリエンナーレ(2016)、越後妻有アートトリエンナーレ(2014-)、アジアパシフィックトリエンナーレ(2009)、横浜トリエンナーレ(2008)などの国際展にも多数参加。近年は、「freeplus×HEBE×ShinjiOhmaki」(興業太古匯/上海、2019)、横浜ダンスコレクション「Futuristic Space」(横浜赤レンガ倉庫、2019)、「Louis Vuitton 2016-17 FW PARIS MEN'S COLLECTION」(アンドレトロエン公園/パリ、2016)などパフォーマンス作品も多く展開する。東京ガーデンプレイス紀尾井町、Ilist(オランダ)、Morpheus hotel at City of Dreams(マカオ)、高松港(香川)などパブリックアートも多く手がけている。



Photo by paul barbara / where they create



《二羽のウサギ》2020年 Photo by Jukan Tateishi

高橋銃(たかはし・せん)

<https://leesaya.jp/artists/sentakahashi/>

1992年東京生まれ、東京都在住。2021年、東京芸術大学美術研究科彫刻専攻修了。ギャラリー LEESAYA 所属。彫刻表現に要する技術を礎に、映像作品やインスタレーション、食用の鮎や香油など、様々な素材の持つ特性を最大限活かし、作品制作に意欲的に取り組む。これまでの主な展覧会に「二羽のウサギ / Between two stools」(The 5th Floor / 東京、2020)、「Sustainable Sculpture」(KOMAGOME SOKO / 東京、2020)、「CAST AND ROT」(LEESAYA / 東京、2021)。



Photo by Jukan Tateishi



《ニト-インベーター in 電線多賀》2016年 撮影:木原三三 ©KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭

カ石咲(ちからいし・さき)

<https://www.muknit.com/>

1982年埼玉生まれ。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科卒業。編む、解くという行為によって一本の糸が変容していく編み物の特性を、人生や自然現象、物事の成り立ちなどと重ね合わせながら制作している。近年の展示に「MIND TRAIL 奥大和 心の中の美術館」(奈良東大和エリア/2020-2021)、「道後オンセナート2022」(愛媛県道後温泉地区/2022)など。

